

動物飼育Q&A

【セキセイインコを売ってくれません】

(Q) この寒さからか、3年生飼育のセキセイインコが、死んで1羽になってしまいました。担当は新しく購入しようと、ペット屋さんに行きましたが、この時期、外での飼育用は手に入らないといわれたようです。本校は、外の小屋ですが立派な物があり、昨年までは17羽もいたことがあるのです。3年生の学年担当です。手に入れたいのですが、

(A) この時期、動物園でも南国原産のインコ達を暖めています。また外に小屋の小鳥の小屋の場合、小屋の上のほうに、ビニールで囲った空間をつくり、その下には、ちょっとした板の区切りがあって、小鳥のために冷気が入りにくい空間をつくれます。つまり鳥は出入りできるけど、冷たい空気をなるべく入れないという処置がしてあります。

そして、ビニールの空間の真ん中に電球がぶらさがっており、それを熱源にして全体をある程度温かくして、そこに木製の巣箱を付けます。このように温かい空間をつくるという手だてをしたら、鳥屋さんにもインコを売ってくれるかもしれませんが、生き物を寒さで死ぬと分かっている飼育者の所に、分けてくれないでしょう。

学校の環境に動物を合わせるのではなく、生き物の特性を考えて、環境にあった動物を飼う、又は条件に細かく対応を変える工夫が動物飼育体験の良い所だと思っています。

つまり命への気遣い、です。ただし、居室の部分の掃除はしづらいうように思います。

だから、インコを外で飼うのではなく、ケージで校舎内で飼い、夜はダンボールの上に置いて、ケージの上からダンボール箱をかぶせて、寒さを防ぎます。それでも寒ければペットヒーターを使うのが良いと思います。

このような気遣いを子供達に見せることで、将来の子育てのときの親としての心遣いを伝えられると思っています。弱いもの、命への配慮をおつたえください。

またケージ飼いの場合、休みの日には、子どもが持ち帰る事が出来ます。

なお、小鳥は一日半飲まず食わずだと、全部死にますので、餌の殻を吹き飛ばして、新しい餌を補給し、毎日容器をこすって洗って新しい水に替えることをお願いします。

【学校を手伝いたいのですが】

(Q) 息子が通う大学の幼稚園から、飼育動物の管理マニュアルを作りたいと資料を請求されました。附属学校全体で作成する、とのことなので、是非仲間に加えて欲しいとお願いしました。無理でしょうか？(獣医師)

(A) やはり獣医師が入っていた方が良いと思います。資料として、獣医師の手伝って作った文科省の飼育マニュアルを示して下さい。また、中川が書いた『保育実践事例集』04/9月 追録第18号 p. 8253-8259 幼稚園保育園での動物飼育の留意事項 第一法規、『幼稚園・保育所の運営トラブル解決事例集』05/3月 追録第7号 p. 2991-2998 第5章健康管理(1) 環境の安全や衛生をめぐるトラブル 飼育小動物への対応 第一法規 欄も良いと思います。しかし、肝心なのは動物と子どもの触れ合わせ方、愛着を培って様々な教育的な刺激を得る、ということを経験が理解してくれることが大事でしょう。

がんばって働きかけてください。

(質問者の追伸) 大学全体で「職員の健康を守るための安全環境委員会」を養護教諭を中心に作り、その項目の一つに「飼育動物の管理方法」を作るそうです。獣医師が支援と「ふれ合い」の活用も働きかけてみます。

【飼育教育指導の会社を作りたいのですが】

(Q) 学校で動物を飼わなくても、大阪の農芸高校生の発表のような動物を連れての訪問や移動動物園などで良い効果は得られると思うので、そのような指導員の仕事集団を立ち上げたいと思っています。どのようなステップを踏んでいったら良いのでしょうか？

(A) 1点目、年に何回か外部からの訪問動物を見てふれあうことで、教育現場が希望している心の教育の効果が得られるか？

今回のシンポジウムや最後の唐木先生の話からも分かるように、「徳」を司る脳の発達には、愛着が大きな影響を与え、愛着は長期間継続した感動体験から生まれます。自分たちの動物という意識を持ちながら、継続して世話をする内に愛着がわき、子どもは必死になって工夫をしながら、身を切られるような悲しみ、はじけるような喜びを感じます。

つまり情をかけながら継続する動物飼育が子どもに培う影響と、たまに訪問してくる動

物を見たり触ったりする体験の影響とは、全く違うわけです。よその動物で培える教育があるとすれば、きっと動物の扱い方、つまり動物愛護教育だけではないかと想像します。

2点目、動物飼育のための指導員を学校で雇うことができるなら理想的ですが、今の教育現場からするとあり得ないことです。可能性を教育関係者にいろいろ聞き合いましたが予算が無理、つまりとても人を雇えないとの話でした。予算が沢山ついている群馬県でも、獣医師会も900万円を拠出しています。社団法人としての社会貢献です。

今、全国的に連携が広まったのは、動物病院院長である地域の獣医師がみな自立していて、多くの報酬を求めているからです。

継続しての飼育支援活動を、獣医師会と別個の事業として立ち上げる構想は、難しいと想像しています。

なお、それぞれの獣医師会では、アシスタントとして、動物病院の看護師に大いに手伝って貰っています。そちらの獣医師会も何らかの対応を始めているでしょうから、ご相談してみてください。

【カラスの害を防ぐには】

（Q）春になるとカラスが通学路の近くの高い木に巣をかけて、子ども達を追いかけて困っています。市に頼んだら対応を断られました。どうしたら良いのでしょうか？

（A）カラスを含めて動物は我が子を必死に育てます。そのために害をなすだろうと思える敵を我が子のいる巣から遠ざけようと頑張ります。それで卵が孵化してから子が巣立つまでの30日ぐらいの間、巣の近くにいる人を攻撃してきます。卵・ヒナがいる巣が原因で、人を威嚇している場合、巣のある木の管理者（所有者）は有害鳥獣捕獲許可を取って巣を撤去することができます。しかし、多くの場合、巣は高いところ、あるいは大木の梢にかけてあり、巣を取り去るには困難が伴います。

通学路に巣をかけたある事例では、親御さんに「カラスの子育ての30日ほどの間、通学時に他の通学路を通ることを認めること、あるいは傘をさしたり、ヘルメットの着用で頭を自衛すること」を勧めました。また朝礼では、カラスの親が子育てしているから、そっとしてあげようと子どもたちに伝えました。

巣が校門の近くで登校する子たちを攻撃した事例では、その入口は当分使わずに、子

どもたちに他から入るよう伝えたそうです。

また、附属小学校で校庭の大木に巣をかけたときは、その木の周りにテープを貼って、30日ほど子ども達を遠ざけたとも書いています。

これらの学校のように、このカラスの親の心情を子どもたちに語ってきかせれば、「親がいかに自分の子どもを大事に思い、命をかけて育てるか」という深い愛情や命の大事さを子どもたちに伝えることが出来るでしょう。また、地球の仲間を庇うという喜びに気付かせることができるでしょう。

そして、このような関わりにより、子どもたちに、ある事柄を一方からだけではなく、相手の立場からも眺めるような訓練と、カラスの卵のふ化から巣立ちまでの成長など、科学的な視点も培う訓練ができるのではないかと考えています。

ピンチは、良いチャンスになるでしょう。

【配膳台が通る廊下にモルモット、不潔】

（Q）廊下にモルモットのケージを置いてありますが、そこを配膳台が通るとき、モルモットの毛や、糞のついていないかもしれないおが屑が飛んで不潔だと思います。外に出したいのですが。（小学校養護教諭）

（A）健康な動物の糞の粉末や毛が口に入ったら病気になるようでは、公園でお弁当を食べる事もできないでしょう。また獣医師はとくに死に絶えています。そんな危険はありません。でも、まず動物が健康で皮膚病もお腹の寄生虫も無いことを確かめて下さい。その上で掃除を毎日して、餌水を毎日与えて病気にさせないように飼って下さい。それは動物のためでもあり、人のためでもあります。実は、同じ種類の人同士の方がよほど病気を移しあい、危険です。インフルエンザも人は毎年千数百人も死にいます。だから休校になるので、鳥インフルエンザでは休校になりません。

注意点・入手の際、シラミ等のない綺麗な醫菌類の個体を実験動物業者などから入手して、掃除と世話をキチンと行うことで健康に飼う。

消毒は生体である細菌を殺しますので、動物にも人にも毒と言える物です。濃度に注意して、事後に良く洗い落とすこと。しかし、動物が病死した後に、新しい動物を入れるときは小屋の消毒が必要ですが、健康な動物を継続飼育している場合は害するだけです。